

[連載] 第7回

清々しき人々

月尾 嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

自然保護と産業育成に尽力した 前田一族

日本の国土面積のうち森林面積の比率は六八%で世界の七七番目です。日本より上位の国々はミクロネシア、セーシェル、パラオなど島国の小国ですが、一定規模以上の人口や面積をもつ国家だけで比較すれば、日本はフィンランド(七三%)、スウェーデン(六九%)に拮抗する三位になります。しかし、フィンランドは日本の九割の面積に約五四万人、スウェーデンは一・二倍の面積に約九六〇万人が生活している規模です。日本が世界有数の森林大國であることが理解できますが、その森林面積を都道府県単位で比較すると、北海道は全体の約二二%を占有する断然首位です。もうひとつの特徴は、森林を天然林と人工林に分類すると天然林の比率が高率なこと、全国平均は約六〇%ですが、北海道は約七三%にもなっています。これは北海道の面積が広大であ

森林王国・北海道



前田正名 (1850-1921)

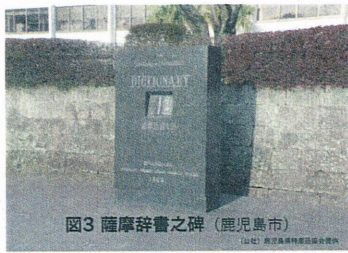
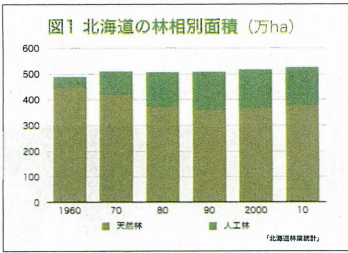


前田正次 (1887-1957)



前田光子 (1912-83)

(一財)前田一歩財団提供



日本には三三箇所の国立公園が指定されていますが、六箇所は北海道に存在します。日本最初の国立公園としては一九三四年に雲仙天草国立公園、瀬戸内海国立公園など八箇所が指定されていますが、そのうちの一個所が北海道東部にある阿寒国立公園です。ここは屈斜路湖、摩周湖、阿寒湖という火山湖とその周辺の雄阿寒岳、雌阿寒岳、カムイヌプリ、アトサヌプリな

この辞書は評価されて政府が権利を買上げ、その資金と官費で正名はフランスへ留学することになり、一八九九年にモンペ

その情報は影響されて海外への留学を目指し、資金獲得のために、一八九九年に『和訳英辞書(通称『薩摩辞書』)』という英和辞書を刊行します。当時の日本には活版印刷の技術がなかったため、藩費により上海で印刷しましたが、約七〇〇ページの本格辞書です(図3)。これは後年、朝鮮総領事や東京大学農学部の前身である駒場農学校長を歴任する兄の前田敏吉と九州鉄道社長や日本勧業銀行総裁に就任する高橋新吉との共著です。

殖産興業を推進した前田正名

なかでも広大な森林の保存に貢献してきた一族を今回紹介します。

その情報に影響されて海外への留学を目指し、資金獲得のために、一八九九年に『和訳英辞書(通称『薩摩辞書』)』という英和辞書を刊行します。当時の日本には活版印刷の技術がなかったため、藩費により上海で印刷しましたが、約七〇〇ページの本格辞書です(図3)。これは後年、朝鮮総領事や東京大学農学部の前身である駒場農学校長を歴任する兄の前田敏吉と九州鉄道社長や日本勧業銀行総裁に就任する高橋新吉との共著です。

しかし、博覧会の開催直後に正名の後桶であった大久保が暗殺され、夫人も同年に死亡したため、帰国してから親族の依頼で東京の大久保邸に逗留することになります。そこで大久保の姪である石原イチと出会い、一八八一年に大隈重信を親代わりとし、松方正義の媒酌により、大久保邸で結婚の挙式をします。この一八八一年は明治一四年の政変が勃発したときで、大隈重信が下野したことにより松方正義が大蔵卿に就任します。

るうえに、本格開発されはじめたのが明治時代以後の百年程度ということが主要な理由です。しかし、北海道の発展とともに天然林も最近では減少の傾向にあります(図1)。一九六〇年には四四七万ヘクタールであった天然林は五〇年後の二〇一〇年には三七六万ヘクタールと、約一六%も減少しています。木材生産のため伐採が進展している影響です。そのような状況にもかかわらず、まとまった天然林が現在まで維持されている場所は何個所かに存在していますが、なかでも広大な森林の保存に貢献してきた一族を今回紹介します。

この阿寒国立公園の成立に尽力したのが今回紹介する前田正名です。正名は一八五〇年に貧乏な薩摩藩医であった前田善安の六男として薩摩に誕生し、学業優秀であったため、一六歳のときに薩摩藩から藩費によって長崎に派遣され勉強する機会がありました。その関係で薩長同盟の締結(一八六六)のときには密使として活躍し、坂本龍馬に面会して龍馬の帯刀を贈与されるとともに、西洋の事情を教示されたという逸話があります。

その関係で薩長同盟の締結(一八六六)のときには密使として活躍し、坂本龍馬に面会して龍馬の帯刀を贈与されるとともに、西洋の事情を教示されたという逸話があります。その情報は影響されて海外への留学を目指し、資金獲得のために、一八九九年に『和訳英辞書(通称『薩摩辞書』)』という英和辞書を刊行します。当時の日本には活版印刷の技術がなかったため、藩費により上海で印刷しましたが、約七〇〇ページの本格辞書です(図3)。これは後年、朝鮮総領事や東京大学農学部の前身である駒場農学校長を歴任する兄の前田敏吉と九州鉄道社長や日本勧業銀行総裁に就任する高橋新吉との共著です。

菊池和子写真展

フクシマ漂流はつづく あの日からフクシマは日本と世界の道しるべとなった

会場 コラッセふくしま 1階アトリウム (福島駅西口駅前3分)

写真展 3/10(金)~3/13(月) 10:00(初日12:00)~16:00(最終日15:30)

スライドトーク 3/12(日) 14:00~16:00 ※無料・先着40名まで [3階企画展示室A]

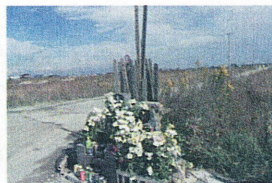
主催:写真展とトーク「フクシマ漂流はつづく」実行委員会 (連絡先・代表 松崎敦子 080-5228-7779) 実行委員募集中心



2011.5. 福島県福島市



2015.10 南相馬市南相馬区



2016.11 浪江町浪江



2016.12 二本松市

後援:福島県・福島市・南相馬市・大熊町・浪江町・双葉町・楡葉町・広野町・富岡町・新地町・伊達市・桑折町・福島民報社・福島民友新聞社・東京新聞・毎日新聞福島支局・朝日新聞福島支局・読売新聞東京本社福島支局・福島テレビ・テレビユー福島・福島中央テレビ・福島放送・NHK福島放送局・ラジオ福島・ふくしまFM・FMポコ・福島県教職員組合・福島県立高等学校教職員組合・福島大学・ふくしまNPOネットワークセンター (2017.2.5日現在)

関連写真集 発売中 (発行:遊行社)

- ① フクシマ漂流 東日本大震災 福島第一原子力発電所事故から4年目の福島を行く B5変型判・定価2000円(税別)
② フクシマ無念 ふる里を連れて5年 2016.4.1 避難解除の南相馬市小高区を行く B5変型判・定価2200円(税別)



